

## 編集後記

『摂南大学教育学研究』第17号ができあがりしましたので、お届けいたします。

「発刊にあたって」で吉田先生も書かれているように、2020年は「コロナ」「コロナ」と、ニュースや新聞等のメディアに触れても、日常の何気ない立ち話のなかでも、この言葉を目に／耳に／口にしない日はありませんでした。振り返ればちょうど1年前は、まさかこのような事態になるなどとは思っていませんでした。それが、事態を十分にのみ込めないでいるうちに緊急事態宣言が発出され、学校は休校状態になり、2019年度の本学卒業生（2020年3月卒業）には卒業式も教員免許授与式もなく、ただ時間の流れに身をゆだねて大学を後にせざるを得ませんでした。年度が改まり、2020年度も休校状態のままスタートしました。私自身も初めてのリモート授業に奔走しましたが、新入生の方はさらに混乱が大きかっただろうと思います。自分が大学生となったことの実感ももてないまま、大学生活やそのシステムに慣れないうちから、ただただ（おそらく無機質に）押し寄せてくるリモート授業に立ち向かったことでしょう。

本学の教職課程については、今年度から枚方キャンパスにできた農学部でも開講され、昨年度よりさらに教職支援センターの教員としての業務が多忙になるなかで、コロナの打撃を受けました。本号の編集幹事は三たび数年ぶりに朝日が務めました。本号の発行についてもやはり多難を要しましたが、継続して発行してこられたことに感慨を覚えます。多方面で労をとっていただいた方々には、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。

コロナともかかわって社会経済の状況も、大学をめぐる情勢も教員養成のあり方も、変化の大きい昨今にあって、将来社会を切り開く若者を育てるために私たちも一層の研鑽を積み重ねていく所存です。ひきつづき皆様のご理解・ご助力を賜りますよう、お願いいたします。

編集委員・幹事 朝日 素明